

インマヌエル中目黒キリスト教会 2016年12月25日聖日礼拝

聖誕節に臨み

「私の目は救いを見た」

ルカの福音書

2章21節～35節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

ルカの福音書 2章21節～35節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています
第二版の聖書は 100 ページ
第三版の聖書は 110 ページ

21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

22 さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。

23 それは、主の律法に「母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばれなければならない」と書

いてあるとおりであった

24 また、主の律法に「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定められたところに従って犠牲をささげるためであった。

25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。

26 また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。

27 彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た。

28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去ら

せてくださいます。

30 私の目があなたの御救いを見たからです。

31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、

32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」

33 父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。

34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人々の心の思いが現れるためです。」

説教

聖誕節に臨み

「私の目は救いを見た」

ルカの福音書

2章21節～35節

竿代照夫牧師

主テキスト

「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。」

(ルカ 2 : 29 - 30)

A．シメオンの賛歌：その背景

1．キリストの誕生

ベツレヘムの馬小屋で(BC 4 or 5年)

2．割礼と命名

8日目、割礼を受け、イエスと名づけられる

3．祝福式

40日目、清めと祝福の儀式を受ける

4．「シメオン」という老人

正しく敬虔で、イスラエルの慰めを待ち望む

B . シメオンの賛歌：その核心

幼子を抱いたシメオンは「私の目は主の救いを見た」と叫んだ。

なぜそう言えたのか？

4つの要素がその背後にあった

1 . 切なる待望

メシヤ待望の祈禱会で「メシヤよ来りませ」

という切なる祈りが捧げられていた

アンナもシメオンもそのメンバー

B . シメオンの賛歌：その核心

2 . 聖霊に従う生活

シメオンには聖霊がとどまっていた。
その聖霊が「メシヤはあなたの存命中に来る」と語り、「今日そのメシヤが来る日」と語った

3 . み言葉の深い学び

メシヤと彼のもたらす救いについて、詳しく学んでいた

世界大の救い

イスラエルに限らず、異邦人に及ぶ救い

B . シメオンの賛歌：その核心

贖いを通しての救い

- ・メシヤは人間の本質を焙りだす
- ・メシヤは自分を犠牲とする

4 . 「祈ったことは答えられた」と信じる信仰
の目

終わりに

今朝、
シメオンと同じ
信仰を
告白しよう